

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 10 月 20 日 (2005.10.20)

【公開番号】特開 2003-202028 (P2003-202028A)
 【公開日】平成 15 年 7 月 18 日 (2003.7.18)
 【出願番号】特願 2002-195646 (P2002-195646)
 【国際特許分類第 7 版】

F 1 6 C 33/78

B 6 0 B 35/18

【F I】

F 1 6 C 33/78 Z

B 6 0 B 35/18 C

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 7 月 1 日 (2005.7.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 5】

次に、図 3 5 に示した第 1 1 例のシール装置 1 2 k は、一方（図 3 5 の左方）のシールリング 4 4 a の一部の面 5 4 a と、他方（図 3 5 の右方）のシールリング 4 5 の一部の面 5 4 b とを、互いに全周に互って近接対向させる事により、これら両面 5 4 a、5 4 b 同士の間にはラビリンス隙間 5 5 を設けている。そして、この様なラビリンス隙間 5 5 を設ける事により、上記シール装置 1 2 k による密封性を強化している。本例の場合も、上記ラビリンス隙間 5 5 を構成する、互いに近接対向させた上記両面 5 4 a、5 4 b をそれぞれ、上記シール装置 1 2 k を取り付け自動車用ハブユニットの中心軸上に存在する点を中心とする半径 R の球面、又はこの半径 R の仮想球面に接する円すい面としている。これにより、上記一方のシールリング 4 4 a を内嵌支持する外輪相当部材と上記他方のシールリング 4 5 を外嵌支持する内輪相当部材との中心軸同士が（上記半径 R の中心点を交点として）互いに傾いた場合でも、上記両面 5 4 a、5 4 b 同士が接触しない様に（上記ラビリンス隙間 5 5 が消失しない様に）している。又、本例のシール装置 1 2 k の場合も、相手面に対する各シールリップ 5 0 ~ 5 2 の締め代を小さくしても、上記ラビリンス隙間 5 5 の存在に基づき、密封性を十分に確保できる。この為、上記各シールリップ 5 0 ~ 5 2 と相手面との摺接部での摩擦抵抗の低減に基づく低トルク化を図れる。その他の構成及び作用は、前述の図 3 3 に示した第 9 例の場合と同様である。